# 北海道医歌人会詠草

## 老耄の春

札幌　古屋　統

思い立ち棚の前まで来て見しが何の用事かもう忘れてる
大切な文書別途に仕舞たる記憶はあれど場所思い出せず
身巡りの我が失せ物を捜し出す妻にいよいよ頭上がらぬ
ボケの危懼問い来る友に応え居り　貴方は私とほぼ同じです
前頭葉皮質に梗塞多発してきみは歌読むことを忘れし

## 近道

帯広　中野　知弘

新しき賠償保険に入りにけり残日斜陽　まち影赤る
今朝もまた万燈灯る斎場の前を近道　われの往還
この日まで決めねばならぬ納骨壇　金光玩具めくカタログは
汽車着きぬ明日同期会は五十回　西へ出づれば雨の札幌
関東の友の喪中の片すみに近況ありき耳鼻科をやむる

## 一期生

美唄　吉村　誠治

看護婦となりて還暦過ぎたりき集える一期生貫録つきぬ
夫々に近況語る一言に永き看護の重みありたり
歩み来し人生の重み夫々に童顔はなく眩しさ覚ゆ
三年間寮の同じ飯くひたりき看護婦試験全員合格
一期生今の伝統築けしは三年間の寮生活に

## 春立ちの花

札幌　魚住あらた

春の雪匂ひはひとつつと想ふ流る、水に雪あかりして
窓の灯にこぼれる雪のひとひらを数へつ流る水の行方を
無心なる吾れ九十七才生ありて海山想ふ茜さす山
茫然と見まをし吾が心行方も知らずつくづくたりき
春を呼ぶ香りをしましつと想ふ沈丁の花春立ちの花

## 健き犬

札幌　山口　康徳

わが国は高山多く平地なしために水害いと夥し
今年こそわれらが年と健き犬介助・救援・麻薬の盾指す
横須賀に突如浮かべる巨大艦原子エンジン備へありとか
狼を増やさむとする議論あり人との共存如何に思ふや
ラムサール増加するのはよけれども巨費投ぜしにカーブ復元

## ジャンパー

札幌　小国　孝徳

大通りよりアプローチもランディングバーンもしろじろとこの朝の雪に迫りて見ゆる
スタート台の後に数滴の尿りしてわなわなと自らの番を待ちぬき
左右のスキーぴたりと揃へて手を廻す戦前のジャンプを吾は恋ほしむ
札幌の街がぐんぐん迫りくるその屋根に落ちむ錯覚に飛ぶ
猫背して杖突き歩む老吾を嘗てのジャンパーと知る人なけむ